水のひろば
Water Square

京都府 南山城村（みなみやましろむら）

自然が薫り 絆が生きる 自立する村!

南山城村北大河原地内

宇治茶の主産地　南山城村

南山城村は京都府の東南端に位置し、東は三重県伊賀市、南は奈良県奈良市、北は滋賀県甲賀市に囲まれた小さな山村です。伊賀川と名張川とが合流して木津川となり、村の中央を流れています。その合流点の峡谷は「夢絃峡（むげんきょう）」と呼ばれ、時が止まったかのように静かな幽玄の世界が広がっています。

夢絃峡

良質のお茶栽培に適した気候・土壌に恵まれ、「宇治茶の主産地」として有名であり、特に煎茶の生産量はお隣の和束（わづか）町と合わせると京都産の80%を超えており、京都府茶品評会では31回中21回の産地賞を受賞し、近年は14年連続の産地賞と13年連続の農林水産大臣賞を獲得しています。

原木しいたけ

ブルーベリー

宇治茶の主産地　南山城村

他にも、京都府内でトップである「原木しいたけ」や「ブルーベリー」が南山城村の特産物です。

高山ダムの建設と村づくり

今日も“28災”として言い伝えられる昭和28年南山城大水害は、南山城地域全域に甚大な被害をもたらし、当時の大河原村・高山村では54人の尊い命が犠牲となりました。この大災害直後の昭和29年に高山ダムの建設が計画され、15年後の昭和44年にダムが完成しました。

春には桜が咲き、秋には美しい紅葉が観賞できるうえに、ダム完成後、周辺には村の総合グラウンドなどが整備され、府立少年自然の家も竣工し、村内外から多くの人が集う場所となっています。また、近年のゲリラ豪雨にも大きな災害に至っていないのは高山ダムの洪水調整機能が十分に発揮されている証です。

昭和30年に大河原村と高山村が合併して南山城

昭和28年災害当時の被災状況

村が誕生しましたが、高山ダムの建設と並行して第1次の村づくりが進められてきました。28災により壊滅的な被害を受けたこともあり、途中に財政再建団体の指定を受けましたが2年で財政再建を完了し、村章を制定して新役場庁舎を竣工させ、ダム建設に伴って架橋された高山大橋も完成、途絶えていた村の伝統文化である田山花踊りが保存会の手で復活するなど、ダムの完成時に第1次の復興の村づくりが概成しました。

高山ダム

魅力ある村づくり

村では今、生き残りをかけた村づくりを進めています。

少子高齢化が急速に進み、若者の田舎離れが加速して人口は3千人にまで減少し、村の主産業であるお茶農家の後継者不足は深刻です。

日本創成会議は将来推計人口から消滅可能性都市名を発表し、村は京都府で最初に消えてなくなる自治体となっています。

村は、この発表がある相当以前から、人口問題には危機感を持って取り組むとともに、破綻寸前であった財政状況を改善すべく必死の財政再建に取り組んだうえで村の活性化を図り、村が自立していくための施策を積極的に展開してきました。

その一環として、田舎暮らし体験プログラムなどに加え、若者の村への流入などにより人口減少を食い止めるため、南山城村役場内に「魅力ある村づくり推進室」を立ち上げました。プロジェクトチームによって、第4次総合計画「自然が薫り　絆が生きる　自立する村！みなみやましろ」をまとめ、村の目指す姿「村で暮らし続ける」ことの実現に向かって事業に取り組んできました。

定住促進奨励金制度の創設、中学校までの医療費完全無料化、保育園や学童保育の受け入れ体制充実などの制度構築により、徐々に成果が現れつつあります。

そして今、その目玉事業として取り組んでいるのが、平成29年春のオープンを目指して整備を進めている「道の駅」事業です。この道の駅は、単なる農産物の売り場でなく、特産品開発などにより農業の振興を図り、地元に雇用を創出し、買い物難民や交通弱者に配慮した村の商業集積地になり、村民の憩いの場所にもしたいと思っています。加えて、観光発信基地にもなり、安心・安全に暮らしてくための防災拠点にもする予定です。

住んでいて良かった。住んでみたい村へ

最近になってこれらの取り組みが村外にも徐々に知れ渡り、「心が癒やされ豊かな自然に恵まれたゆとりのある生活ができ、子育てのしやすい環境が整った南山城村に住んでみたい！」と評価も高まりつつあります。

道の駅オープン後は、本年4月から再スタートを切る「南山城村自然の家」とも連携するなどして、更なる「魅力ある村づくり」を展開することにより、消えてなくなってしまう村でなく、「住んでいて良かった。住んでみたい。」と思っていただける村であり続けたいと願っています。

高山ダム下流　木津川河川敷